

講社祖靈殿合祀祭文

これの○○講の御靈代に今し嚴かにお鎮まり下さいました故△△△△大人之靈の御前に慎んで申し上げます
あわれ汝大人は去る 月 日長命とは云いながら齡八十五歳というをこの世の限りとして ゆくりなくも俄に出直されましたことは 思えばやはり淋しく名残惜しい限りでございます

さはあれ人間というは身の内かしもものかりものなれば生きるも出直すも親神様の妙なる御支配であり むしろなつてくる一切は大難は小難であり 更には又後に続く一同の成人を望まれる上からの深く温かい親心現れであつて 必ずふしから芽が出るとも仰せ頂いております
一同改めて汝大人はこれの○○家の長男として御両親への孝心はもとより 惜しくもいち早く来世に先立たれし妹弟の上にも何かと心砕きつゝ、その上親戚の一人々々への誠を捧げながら 炎熱の夏も酷寒の冬も厭わず 朝は早くから夜は遅く迄 己が務めを十二分に果たされし長の年月を偲び 改めて現世にありし頃の笑顔脳裏に浮かべつゝ、一同と共に厚く厚く感謝申し上げたいと存じます

茲に家族親族 親しき人々と共に 只今心を籠めて かくの如く合祀祭をつとめさせて頂いた眞実を充分にお受け取り下さいまして これの△△講につながる子達孫達の先々に至るまで一層の陽氣ぐらしの実が見え これの周辺により広くより大きく神名の流れて参りますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます